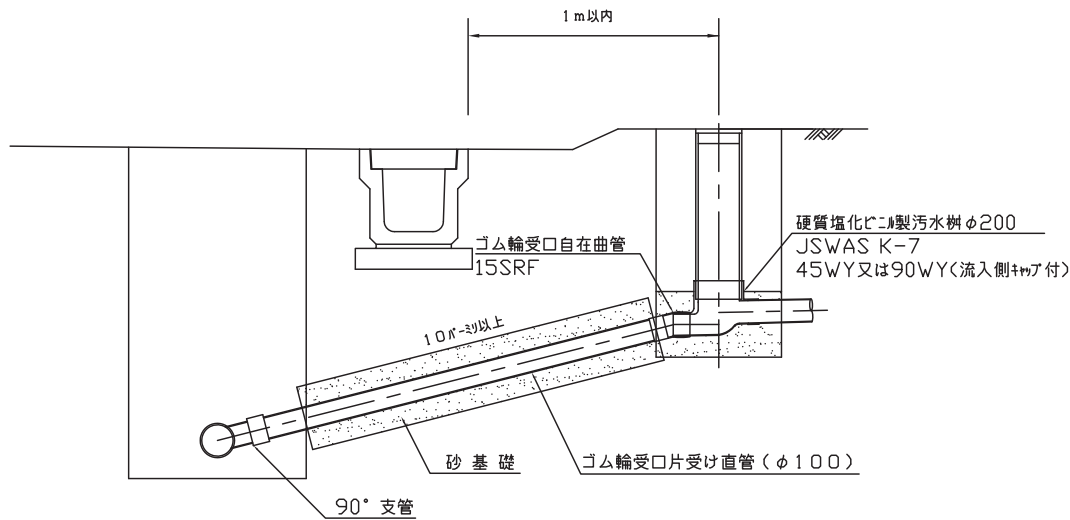
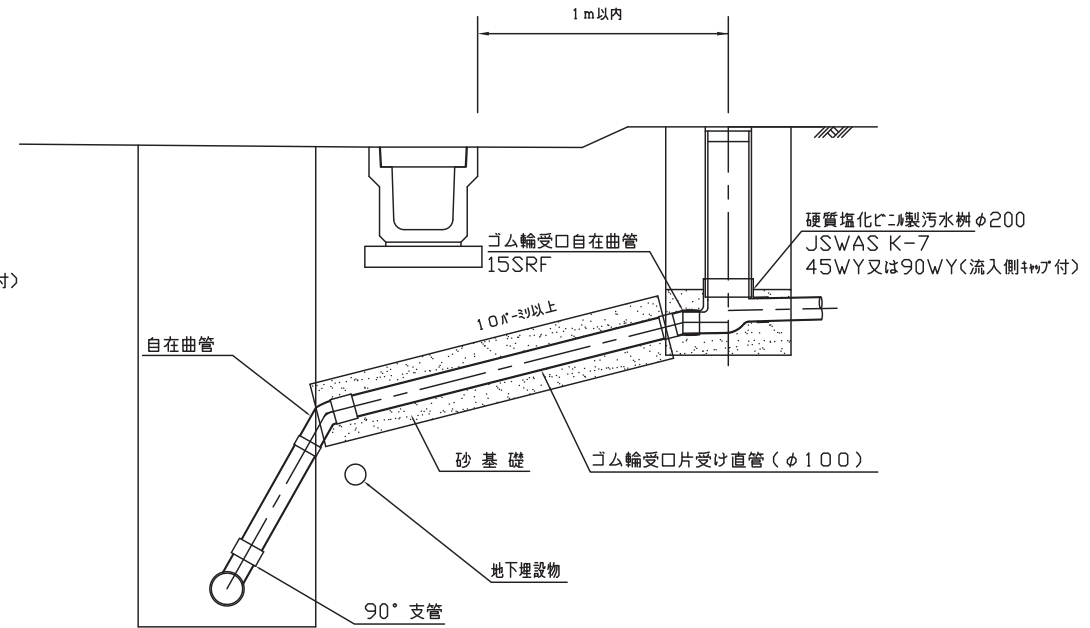


汚水取付管布設標準図

標準施工が困難な場合



標準施工



※標準施工としては、本管中心線から上方を穿孔範囲とし、曲管を「接続樹の流出部」と「支管からの立上げ部」に使用することを標準とするが、他の埋設物や排水設備側からの流入高等のやむを得ない影響によりその施工が困難な場合に限り、取付管の中心線を本管中心線から上方の範囲内とし、曲管を「接続樹の流出部」のみとすることができる。

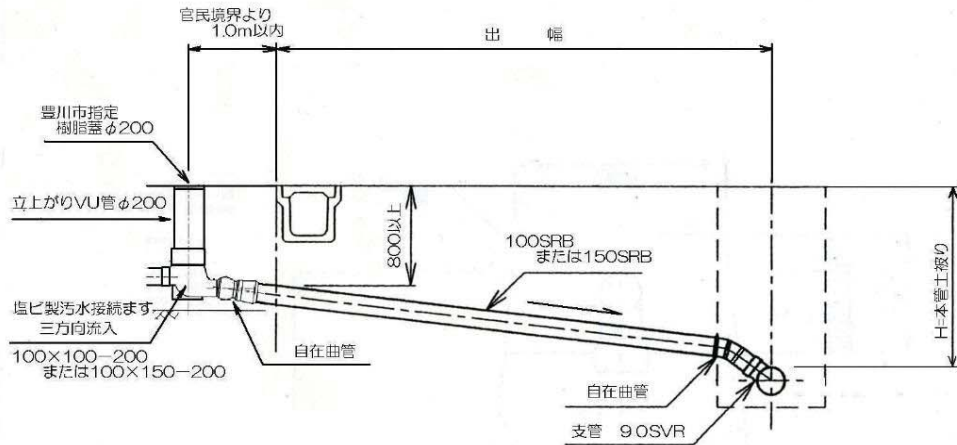
※砂基礎（保護砂）の留意事項

- ・支管部から接続樹の流出部に至るまで、全周10cm以上の巻き立てを必ず行うこと。
- ・湧水がかなりある現場については、砂の代わりに単粒度碎石（6号、7号）を使用すること。

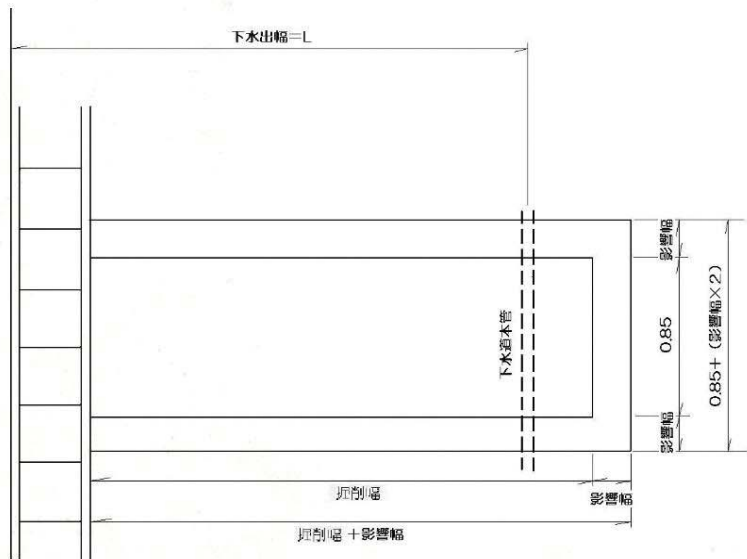
(参考図)

取付管布設標準図

取付管標準断面図



舗装復旧工

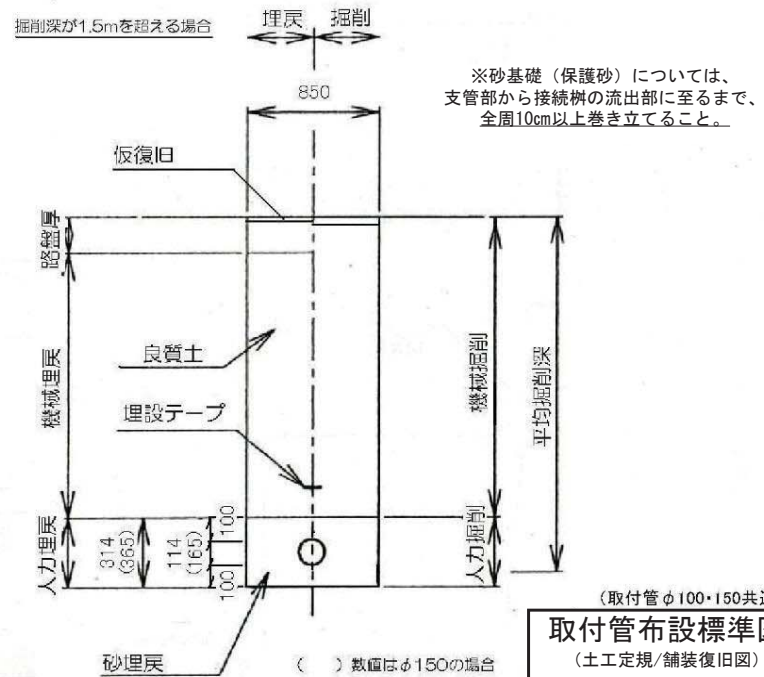
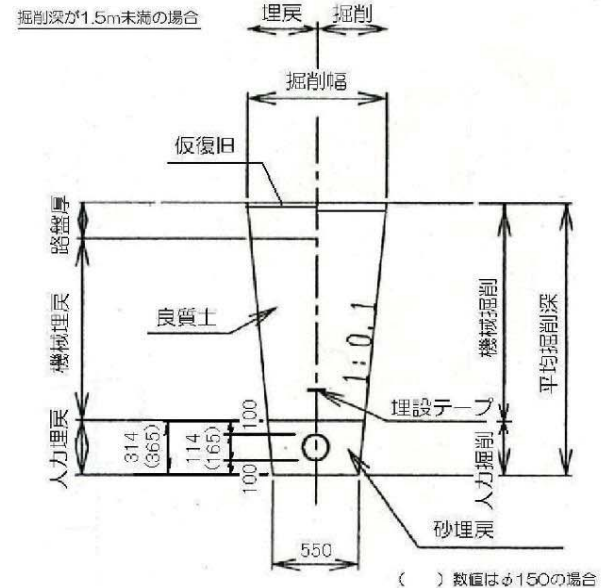


仮復旧 (加熱合材 t=3cm)
0.85×L

本復旧
(掘削幅+影響幅) × (0.85+ (影響幅×2))

注) 舗装厚及び路盤厚は原形復旧を原則とする。

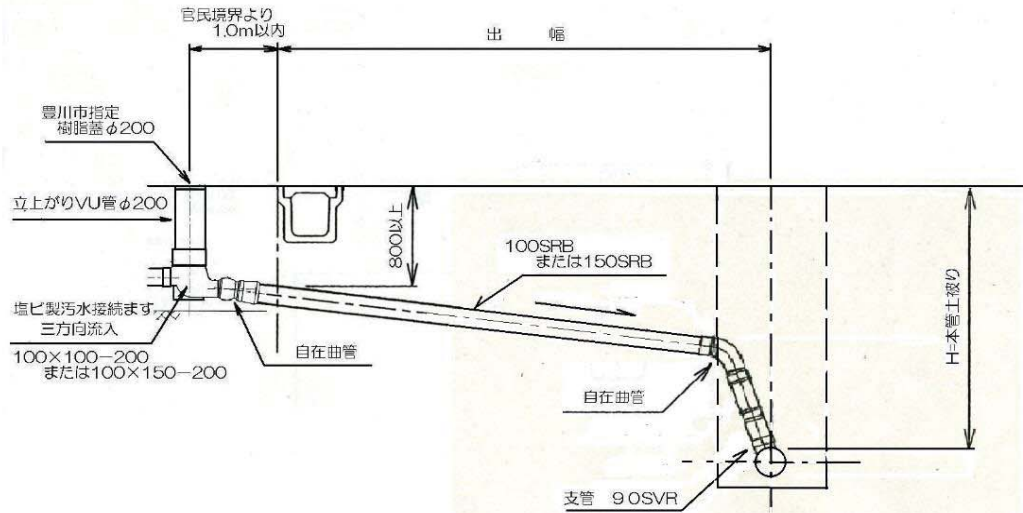
土工定規図



(取付管φ100・150共通)
取付管布設標準図
(土工定規/舗装復旧図)

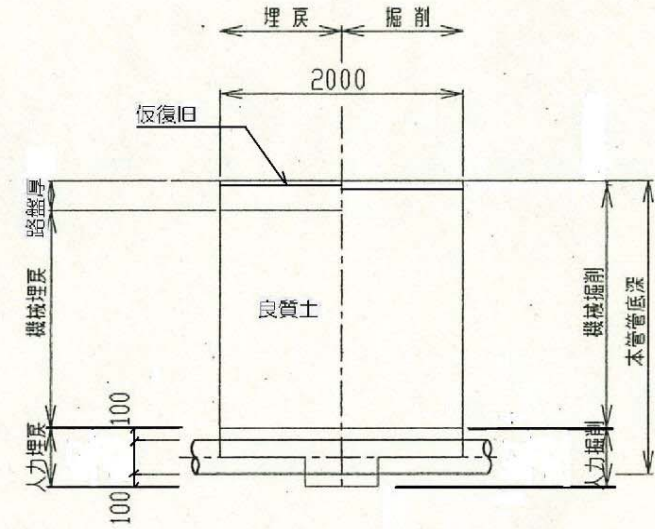
取付管標準断面図

本管土被り H=2.50(2.00)m 以上
()= 現場状況による



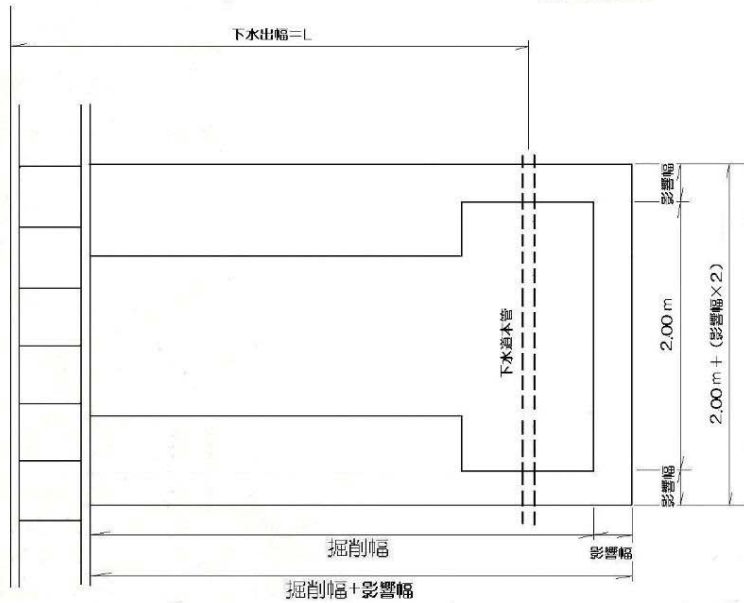
本管土工定規図

本管土被り H=2.50(2.00)m 以上
()= 現場状況による



舗装復旧工

本管土被り H=2.50(2.00)m 以上
()= 現場状況による



修復土 (加熱合材 t=3cm)

本復旧
(掘削幅+影響幅) × {2.00m + (影響幅×2)}

注) 舗装厚及び路盤厚は原形復旧を原則とする。

(取付管φ100・150共通)
取付管布設標準図
(土工定規/舗装復旧図)